

# 平成30年度 研究構想図

## 【研究テーマ】

適切な実態把握と根拠のある指導に基づく授業作り  
 ～重度・重複障害のある児童生徒の主体的な学びを目指して～

## 【研究目標】

(目標)適切な実態把握と根拠のある指導に基づいて授業を作れば、重度・重複障害のある児童生徒の主体的な学びを実現できるだろう

具体的にどのように実態把握したらよいの？  
 根拠のある指導ってどうしたらよいの？

重度・重複障害の児童生徒の「主体的に学ぶ姿」ってどんな姿？

5月 アンケート調査 先生方が考える「主体的に学ぶ姿」とそれに必要な指導支援の工夫について

6月15日付 全体提示  
 ☆重度重複障害の児童生徒が授業の中で「主体的に学ぶ姿」の具体例一覧  
 ☆児童生徒の「主体的に学ぶ姿」を引き出すために必要な指導・支援の工夫(試案)

現状で先生が考えているイメージと指導・支援の工夫アイデアの共有

### 《仮説》

(指導内容、支援の工夫)をすれば、授業の中で児童生徒の(主体的に学ぶ姿)を引き出すことができるのではないか。

※適切な実態把握 → 引き出したい「主体的に学ぶ姿」は児童生徒の実態に合った目標値になっているか？

※根拠のある指導 → 指導・支援の工夫は、「主体的に学ぶ姿」を引き出すために有効なものとなっているか？

## 【研究工程表】

### 授業前

- 授業者がアンケートを記入
- 本時の授業で授業者が引き出したい児童生徒の「主体的に学ぶ姿」を明文化
- 本時の授業で「主体的に学ぶ姿」を引き出すために取り組む指導・支援の工夫を(試案)から7点抽出。

### 研究授業 研究協議

- 研究授業実施
- 研究協議で、授業前のアンケートの本時の授業で授業者が引き出したい児童生徒の「主体的に学ぶ姿」と指導・支援の工夫について、その有効性や指導理論を検証。
- 仮説(本時の授業内容)を(指導・支援の工夫)をして指導をすることで、児童生徒の(主体的に学ぶ姿)を引き出すことができるだろう。

### 研究協議後

- 授業者がアンケートを記入(授業前と同じもの)
- 研究協議を受けて、引き出したい児童生徒の「主体的に学ぶ姿」を再確認。変更や修正があれば記入する。
- 研究協議を受けて、「主体的に学ぶ姿」を引き出すために明らかになった、必要な指導・支援の工夫を(試案)から7点再抽出。

### アンケート回収 分析

- 授業者から教育研究部がアンケートを回収、分析
- 「主体的に学ぶ姿」の集約→項目のアップデート→重度・重複障害の児童生徒につけたい力を抽出→学校として目指す、重度・重複障害の児童生徒の「主体的な姿」を具体化
- 指導・支援の工夫の項目の精選
- 指導・支援の工夫のチェック項目をデータ化。可視化→多くチェック入った項目=本校で力を入れている指導・支援(重点ポイント)→有効性の検証から次年度の研究テーマ(ここは押さえて授業作りしよう!)につなげる。

### 年度末 授業改善のまとめ

- 授業研究のまとめで、教育研究部が発表
- 「主体的に学ぶ姿一覧」のアップデート(引き出したい姿)
- 学校として目指す、重度・重複障害の児童生徒の「主体的な姿」を具体化、明文化(つけたい力)
- 「指導・支援の工夫」のアップデート
- 有効な指導支援のポイント提示→次年度の研究へ
- 成果物 ①研究紀要 ②指導案集 ③主体的に学ぶ姿一覧 ④指導支援の工夫